

2025年度入試 文学研究科 解答又は解答例及び出題意図

課程	英文学専攻博士後期
実施期	I 期
科目名	英語学系
	解答又は解答例 及び出題意図
〔I〕 (A)	<p>〔解答例〕</p> <p>(1) 他言語の知識に基づく誤った推測は、第一言語を学ぶ者がすることのない誤用を引き起こす可能性がある。</p> <p>(2) 年齢に伴う認知的発達とメタ言語的気付きは、特に限られた時間しかその言語に触れる機会がない教室で言語を学んでいる学習者にとって重要である。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>本設問の文章は、第二言語習得分野における年齢による認知的・言語的な違いを説明し、第一言語の知識や認知的成熟度の影響を考察している。設問で問われている代名詞の指示内容を正確に把握することは、論理的な文章理解に不可欠である。設問(1)(2)では、文脈の流れを正しく把握しながら、代名詞“this”の指す内容を特定し、それを適切な日本語に訳す読解力を評価することが目的である。</p>
	<p>〔解答例〕</p> <p>(3) 言語の形式ではなく意味に焦点を当てた活動、自発的なやり取りの機会、そして豊かで多様な理解可能なインプットを重視したクラスでは、学習者は英語の聞き取り能力と英語でのコミュニケーションに対する自信を身につけた。</p> <p>(4) 特別な指導の間、すべての学生は通常の授業で行われていた通常のコミュニケーション活動に引き続き参加していた。</p> <p>(5) 副詞の配置について明示的な指導を受けた学習者は、指導を受けなかった学習者に比べて顕著に優れた成績を示した。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>本設問の文章は、1980年代以降のケベックにおけるフランス語を母語とする生徒の英語学習についての研究を紹介し、コミュニケーション中心の教授法の長所と限界、および明示的な指導の短期的な有効性と長期的な課題を考察している。〔I〕(A)と同様に、英語の論理構造を的確に解釈する能力と代名詞の指示内容を正しく把握し、それを適切な日本語で表現する読解力を測ることが目的である。</p>

〔Ⅱ〕	<p>〔解答〕</p> <p>受験生により異なる。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>本設問の意図は、言語学や英語圏の文学・文化の多様な分野に関する基本概念の理解を測ることであり、設問を通じて、受験者の専門知識の理解度、説明力、要約力を総合的に評価することである。言語学、文学、社会問題など異なる分野から選ぶ必要があり、英語の専門用語を簡潔かつ分かりやすい日本語で説明する能力が求められる。</p>
	<p>出典： Lightbown & Spada (2013) <i>How Languages are Learned</i> (4th edition)</p>